

正 誤 表

標準失語症検査マニュアル改訂第2版

標準失語症検査マニュアルに、下記の誤りがございました。

別紙に正しい記載をお示しさせていただきます。

ここ改めてお詫び申し上げます。

- ・ p.134：症例Ⅰの標準失語症検査プロフィール（A）を修正。
- ・ p.149：症例Ⅱの標準失語症検査プロフィール（A）を修正。
- ・ p.181：図Ⅶ-8 失語・非失語別・下位検査別平均得点（2段階評価による）を修正。
- ・ p.183：図Ⅶ-9 失語・重症度別・下位検査別平均得点（2段階評価による）を修正。
- ・ p.184：図Ⅶ-10「失語型別・下位検査別平均得点（2段階評価による）」を削除。p.17～20には図Ⅶ-10に関わる記載が残ったままになっておりますが、当該部分は不要な記載とお考えください。

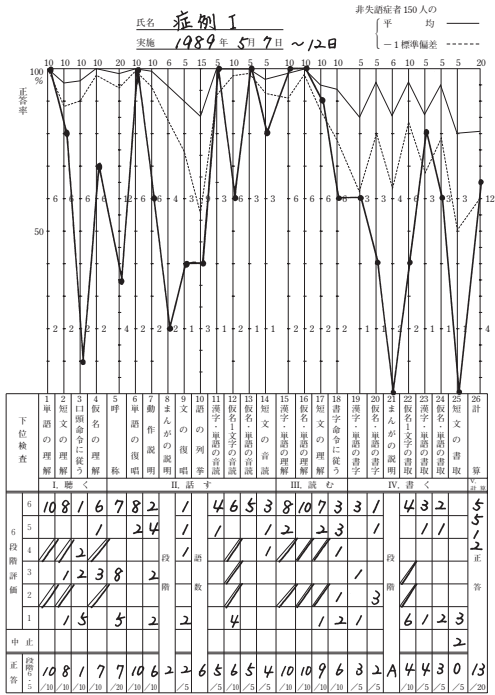
新興医学出版社（2024）

正誤表

(正)

134

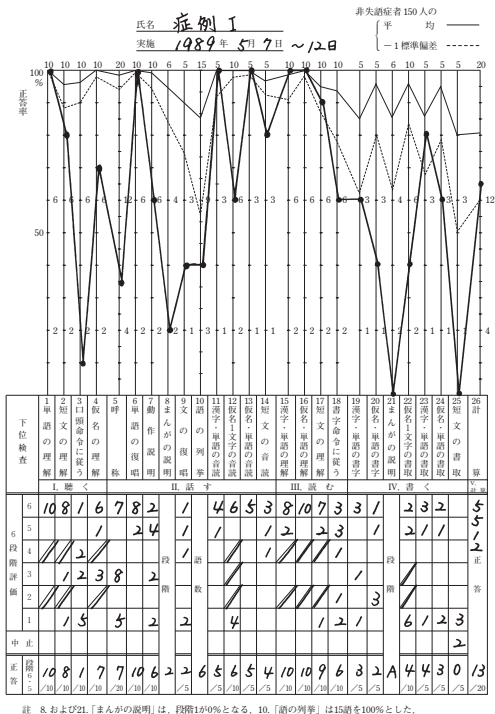
標準失語症検査プロフィール (A)



(誤)

134

標準失語症検査プロフィール (A)

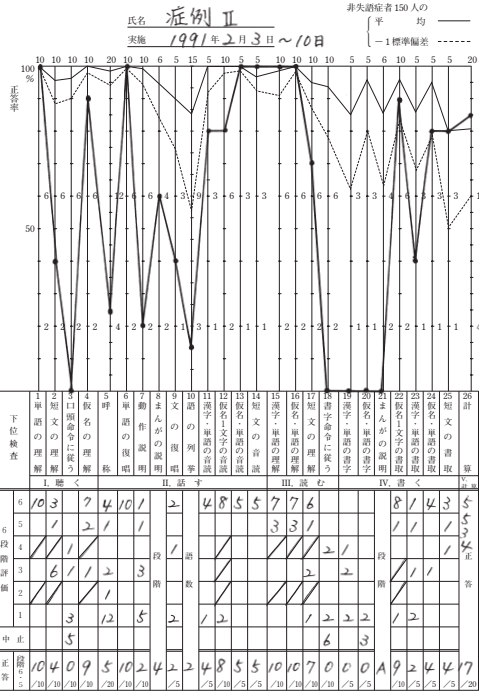


正誤表

(正)

標準失語症検査プロフィール (A)

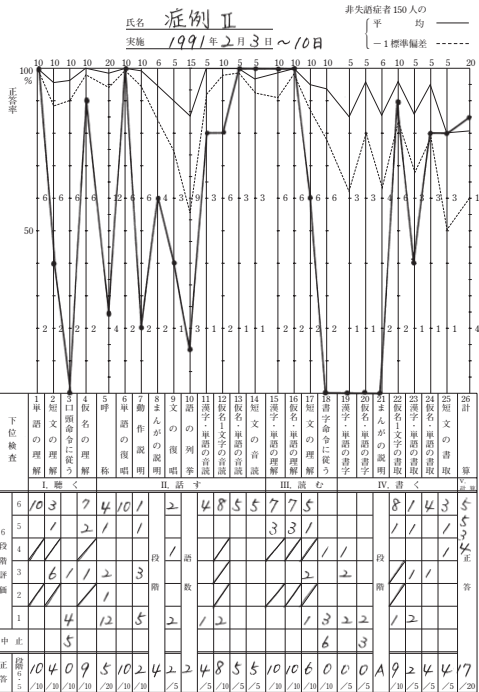
149



(誤)

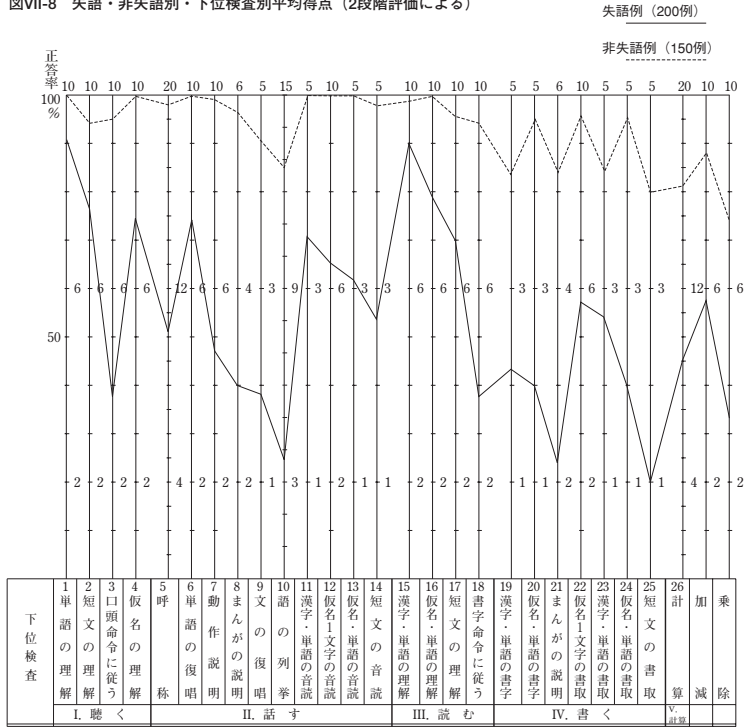
標準失語症検査プロフィール (A)

149

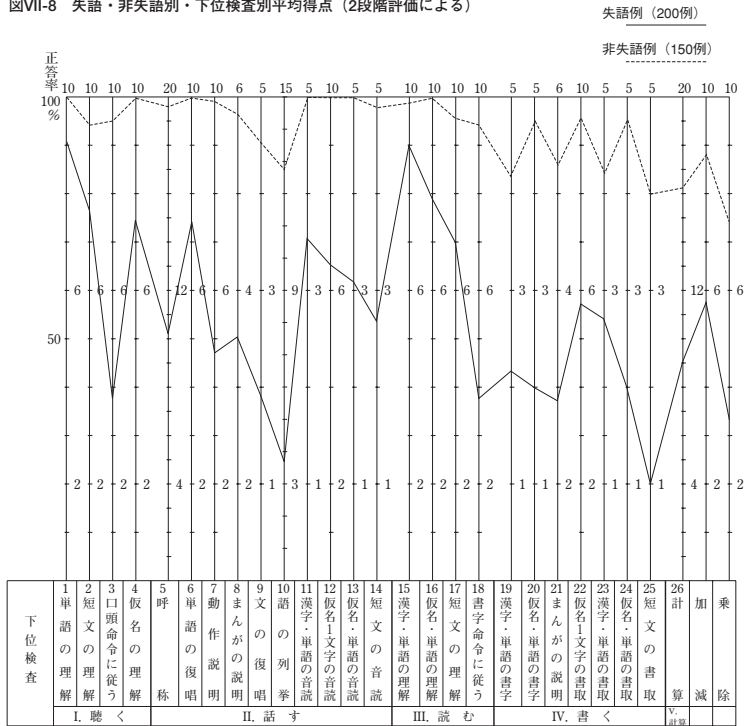


正誤表

(正) 図VII-8 失語・非失語別・下位検査別平均得点 (2段階評価による)

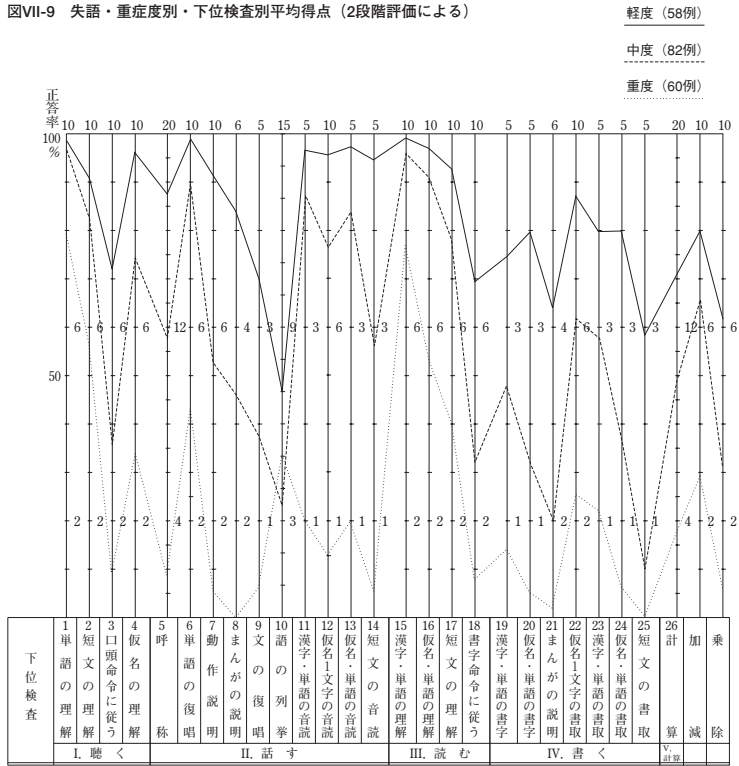


(誤) 図VII-8 失語・非失語別・下位検査別平均得点 (2段階評価による)

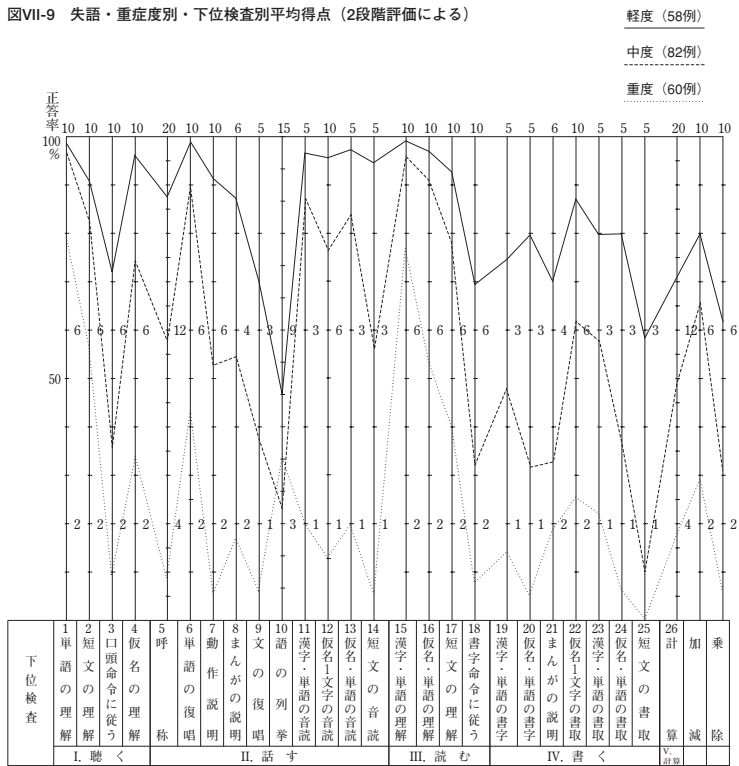


正誤表

(正) 図VII-9 失語・重症度別・下位検査別平均得点 (2段階評価による)



(誤) 図VII-9 失語・重症度別・下位検査別平均得点 (2段階評価による)



つぎに、図Ⅶ-10に関わる記載について正しい記載をお示しいたします。

6. 下位検査別得点

表VII-19に失語症200例，非失語症150名の下位検査別の平均得点および標準偏差を示した。また図VII-8に平均得点を図示した。失語例と非失語例を比較すると，いずれの下位検査についても明らかな成績差が認められた。

表VII-20に失語例の重症度別の各下位検査の平均得点および標準偏差を示し，図VII-9に失語例の重症度別の平均得点を示した。多くの下位検査では軽度と中度の成績差に比べ，重度の症例で成績の低下が著明であった。

これらの結果を各下位検査別に検討すると以下のとおりであった。

聴く

単語の理解

本下位検査は非失語例では誤ることはなく，失語例でいずれの問題項目も80%以上の正答率を示した。失語症の軽度例および中度例では成績低下は認められず，重度例で成績の低下を示した。

短文の理解

非失語例では多少の誤りを示し，失語症の中度，重度例で明らかな低下が認められた。

口頭命令に従う

非失語例ではほとんど誤らないが，失語例では軽度であっても明らかな低下を示した。

仮名の理解

重症度では中度以下で明らかな低下を示した。

話す

呼称

非失語例では誤反応は20項目中1項目以内であるが，失語例では中度以下で明らかな障害が認められた。

単語の復唱

比較的容易な課題で，重度の症例で明らかな低下を示した。

動作説明

中度例でも低下が大きく、重度例ではほとんど得点できなかった。

まんの説明

非失語例でも成績にばらつきがみられ、失語症軽度・中度例において、その反応の個人差が評価できたが、重度失語例ではほとんど得点できなかった。

文の復唱

本課題は難度が高く、非失語例でも一部失点した。失語例では軽度例および中度例の症例の間で成績に差が見られたが、重度例ではほとんど得点できなかった。

語の列挙

本項目は難度の高い項目で、軽度失語例でも非失語例に比べて明確に低成績であった。重度失語例ではほとんど反応は得られなかった。

漢字単語の音読

明らかな低下を示すのは重度失語例であった。

仮名1文字の音読

非失語例では誤ることはなかった。

仮名单語の音読

非失語例では誤ることはなかった。重度失語例で明らかな低下を示した。

短文の音読

比較的難度が高い課題であり、非失語例においても若干の誤反応が認められた。

読む**漢字単語の理解**

容易な課題で、軽度および中度の失語例では正答可能で、重度失語例の症例間で成績にばらつきが見られた。

仮名单語の理解

本課題は非失語例では全く誤ることのない容易な課題であるが、重症度の上では重度失語例で明らかな低下がみられた。

短文の理解

非失語例には容易であったが、中度以下の失語例に困難が認められた。

書字命令に従う

本課題は難度が高く、非失語例でも誤ることがあった。失語例では軽度であっても明確な低下を示した。

書く

漢字単語の書字

本課題は困難であり、非失語例でも一部誤った。失語例では軽度でも明らかな低下を示した。

仮名单語の書字

非失語例では漢字に比べ仮名单語の方が誤りは少なかった。失語例では軽度であっても明らかな低下を示した。中度および重度の失語例では漢字単語の書字に比べて仮名单語の書字の方が不良であった。

まんがの説明

本課題は難度が高く、非失語例の反応でも完全とは判定されず、失語例では軽度および中度にはその反応の個人差が評価できるが、重度例では部分的にも正しい反応が得られなかった。

仮名 1 文字の書字

非失語例でも一部誤り、失語例では中度以下で明確な低下を示した。

漢字単語の書取

漢字単語の書字と比べると若干良好な成績で、単語の想起に関わる相違であると考えられる。失語例では軽度例からすでに低下が認められた。

仮名单語の書取

仮名单語の書字と同様非失語例では漢字単語よりも容易であるが、失語例では漢字よりも不

良であった。

短文の書取

書字課題のうちでも難度が高く、非失語例でも誤ることが多かった。失語例では軽度および中度では個人差が反映されるが、重度では全く得点されなかった。

計算

失語例には困難で、中度以下では明らかに低得点であった。加減算に比べて乗除算の成績が不良であった。

文 献

池田 史：テスト II，心理学研究法 8，東京大学出版会，1973.